

第 63 回市町村職員を対象とするセミナー 介護予防に係る取組について	
--	--

平成 19 年 7 月 27 日

資料 3 - 3

資料 3 - 3 :

稲城市の介護予防事業について

～介護予防を中心とした地域づくり～

稲城市の介護予防事業について ～介護予防を中心とした地域づくり～

平成19年7月27日

稲城市福祉部高齢福祉課

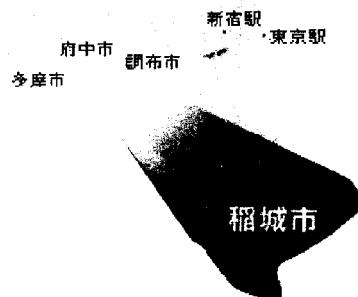
稲城市の位置、人口等

人口80,175人

男 40,791人

女 39,384人

33,305世帯



★東京都心の新宿から西南に約25km、南多摩地区の東端に位置しています。

★面積は 17.97km²(東西、南北とも約 5.3km)です。

介護保険の実施状況

要介護者等の出現率

(単位: 人)

区分	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
人数	250	184	339	196	224	163	154	1,510
構成比	16.6%	12.2%	22.4%	13.0%	14.8%	10.8%	10.2%	100.0%

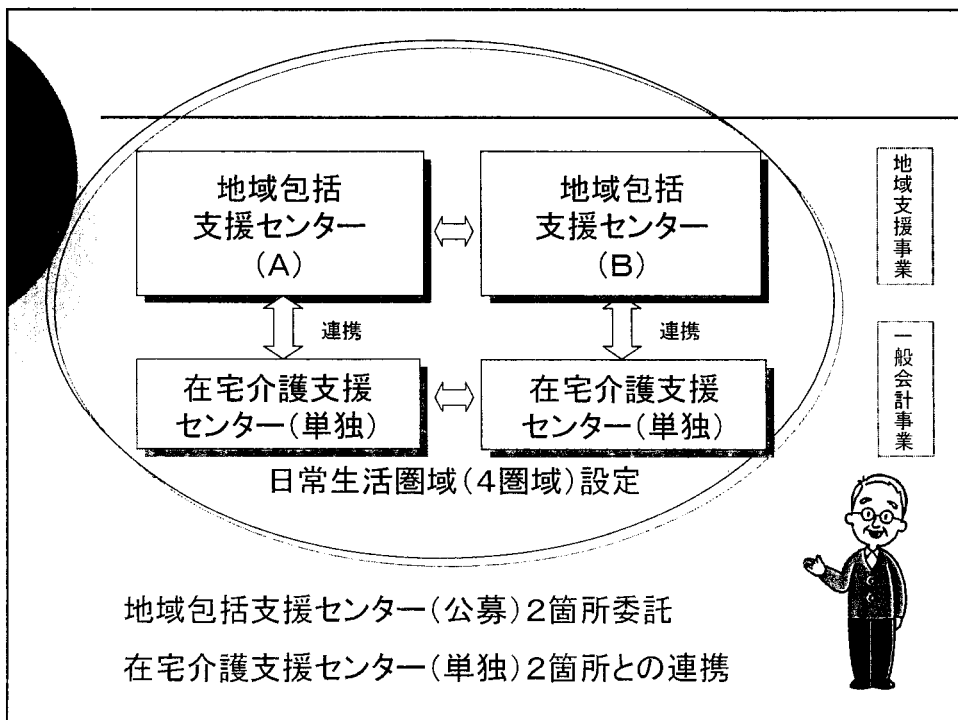
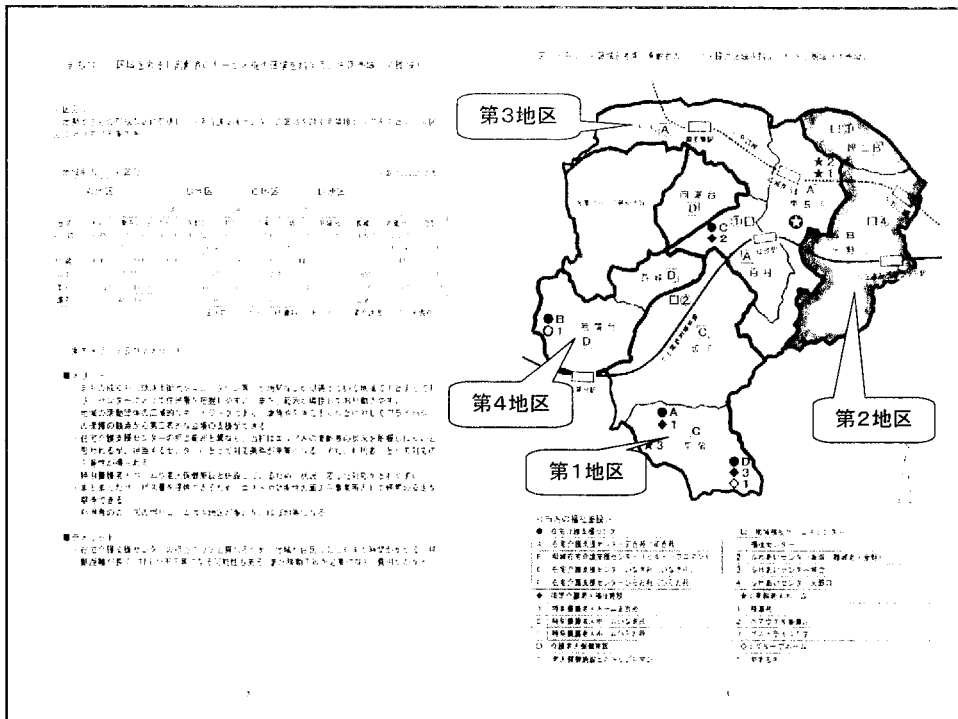
(平成19年3月末)

給付費等の規模等

(単位: 百万円)

区分	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
給付費等	1,250	1,604	1,786	1,915	2,101	2,215	2,329	2,629	2,746
要介護者数等	832人	975人	1,147人	1,268人	1,328人	1,460人	1,501人	1,585人	1,640人
保険料(月額)	3,000円			3,300円			4,400円		

※19年度までは予算ベース、20年度は事業計画ベース



対象者の把握(平成16年度から平成18年度)

○ 介護予防スクリーニングの手法

「介護予防健診 おたっしゃ21」を使用

- 平成18年度は「基本チェックリスト」をあわせて実施した。

○ 対象者

要介護2以上を除く、65歳以上高齢者

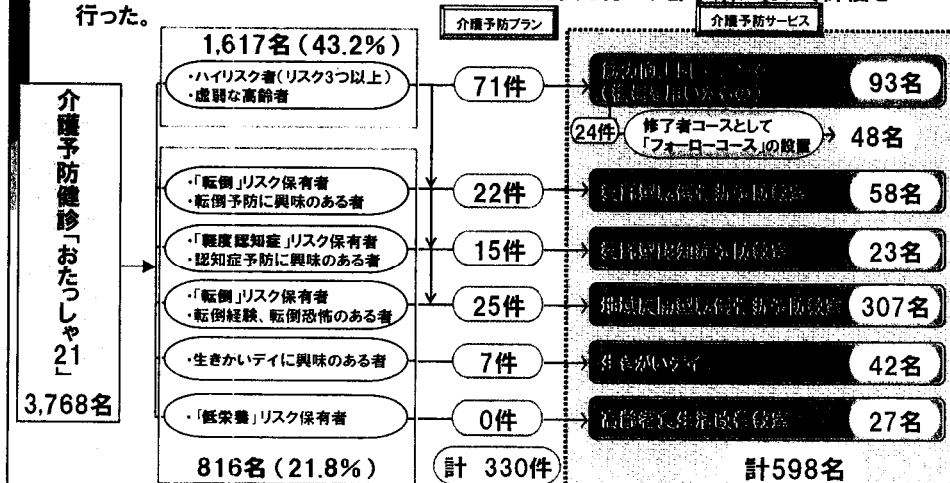
- 平成16年度から3年間で要介護2以上を除く高齢者全員に対して実施することを目標とした。

○ 把握実績(実人数)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	3ヶ年の合計
把握実績	1,268名	3,736名 * 医師会の協力	1,196名 * 医師会の協力	6,191名
受診票送付者に占める割合		42.6%	19.7%	
65歳以上高齢者に占める割合 * 各年度3月末時点	12.6%	34.6%	10.6% * 平成18年10月現在	56.9%
要介護2以上を除く高齢者に占める割合	13.4%	35.1%	11.3% * 平成18年10月現在	60.9%

介護予防プランの作成 (平成17年度の例)

- リスク出現数および保有項目に応じたサービス提供を行い、各事業において評価を行った。



おたっしゃ21以外の公費費

◎地域型認知症予防教室:2グループ

◎介護予防教室:78回実施(延べ1,992名)

◎旅行グループ:9名、調理グループ:7名

転倒骨折予防教室①



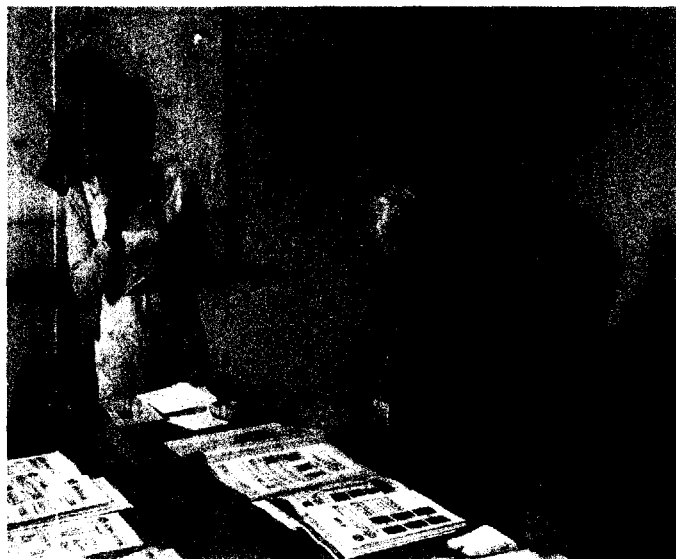
転倒骨折予防教室②



転倒骨折予防教室③

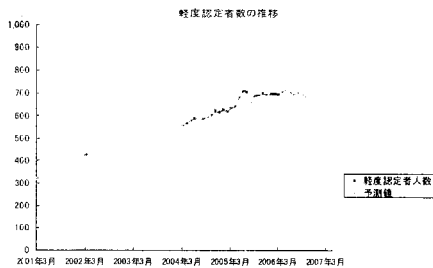


口腔機能向上プログラム実施風景



稲城市における3ヶ年の効果

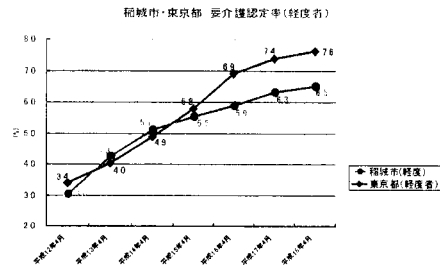
軽度要介護者数の推移



平成17年度中頃より抑制

要支援及び要介護1の認定者数を合わせた軽度要介護認定者数は、平成17年度中頃より、増加から抑制に転じ、現在もその傾向が続いている。

要介護認定の認定率



平成15年度より抑制傾向が顕著

平成15年度より抑制傾向が顕著となり、その後、横ばい状態となっている。

稲城市の介護予防地域活動の推進

○ 地域住民の主体的な活動支援

「介護予防推進員」の育成

- 地域で「おたつしゃ21」を実施し、『地域』と『在宅介護支援センター』とのパイプ役
- 介護予防に関する講演会やイベント等でのサポート

「筋トレボランティア」の育成

- 筋トレ修了者が、地域で社会参加をする受け皿として機能
- 教室運営のサポート役

「講師・サブリーダー」の育成

- 地域展開型転倒骨折予防事業の指導者としての役割
- 地域で活動を行なっている自主グループの支援



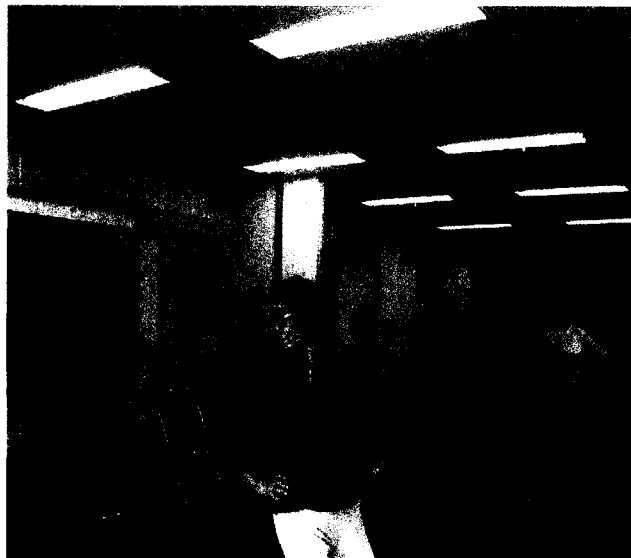
○ 社会資源の整理

「稲城市 社会資源マップ」の作成

- 市内にて、介護予防に関する活動を行なっているグループを掲載



転倒骨折予防【さわやかクラブ】



自主グループ【押立】



普及・啓発

○ 多様なチャンネルを用いた介護予防に関する情報発信

広報「いなぎ」の活用

- シリーズ化した「介護予防」に関する情報及び特集号の掲載

「懸垂幕」の作成

- 庁舎への掲示

「介護予防大会」の実施

- 地域で活躍する自主グループの活動紹介

「稲城繁盛節！介護予防体操」の作成

- 市民に親しまれている「稲城繁盛節」を、介護予防体操として考案

「介護予防ビデオ」の配布と活用

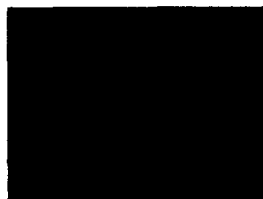
- 「簡単にできる介護予防体操（初級編）」を考案し、ビデオとマニュアルを配布
- 老人クラブ、ふれあいセンターなどで活用



稲城市介護予防大会の実施

✓ 自主グループ活動の支援

- ・ 毎年実施
- ・ 参加人数：220名程度（ボランティアなど含む）



第3回介護予防大会(平成19年7月6日)



稲城市の新しい地域づくり施策

【今後の課題】

- 団地地区を中心に、地域のコミュニティの力を高める必要が生じてきた。
- 社会参加活動への参加を望む高齢者が増えてきている。

【求められる施策】

- 1 高齢者自身の介護予防につながる社会参加活動(自助)を支援すること。
- 2 元気な高齢者による介護者等への支援ボランティア(共助・互助)を褒賞・奨励すること。
- 3 上記の結果、地域支援事業費、介護給付費等の費用を直接・間接的に抑制すること(給付費等の抑制)。

【稲城市の新たな地域支援事業】

「介護支援ボランティア制度」

- 高齢者の社会参加を支援し、介護予防の効果を期待するもの。
- 元気な高齢者を増やす取り組み。



主役は地域住民(社会参加のきっかけが重要)



稲城市の介護予防事業について

(終)

平成19年7月27日

稲城市福祉部高齢福祉課